

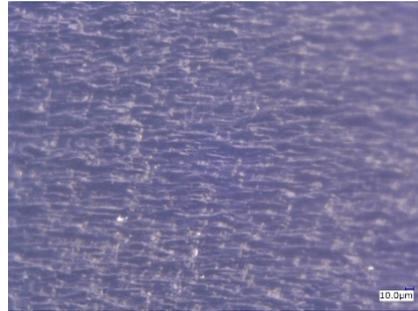
ムーンストーンのラメラ構造

写真撮影・文：渥美 郁男
株式会社宝石科学アカデミー
(一般社団法人 日本宝石協会 会員)

ムーンストーン (写真1) は最初の高温状態では正長石と曹長石を合わせ持った固溶体*の長石でした。とその後の生成過程で温度が下がり2種 (正長石・曹長石) の長石の薄い層が離溶 (りよう) *により分離し別な安定した鉱物になったものです。このような分離した薄い2種類の鉱物からできた構造はラメラ* (写真2) とよばれています。これらにカボション・カットを施すと交互に積層した構造からの光の反射と干渉により月の光のような輝き (シラーやアデュラレッセンスまたはイリデッセンスと呼ばれる) が表れます。



(写真1)



(写真2) 電子顕微鏡にて撮影